

課題

わかものに地域の防災活動に参加してもらうにはどうすればよいか提案してください。

具体的には、わかものが興味を持つ防災訓練・防災講話とはどのような方法があるか。また、SNS などを利用した効果的な広報活動はどのような方法があるか。それ以外の考えられる方法があれば、自由に提案してください。

<学生からの提案施策 ①>

高校生・大学生を対象とした謎解きゲーム「謎解きアドベンチャー」。

具体的には、防災セミナー、防災活動体験を行ったあと、学んだことを駆使して問題を解決するゲーム。小中学校の体育館を使用し、消防署・消防団、家具固定ボランティアの協力を得て実施する。

わかものが主体的に参加、楽しみながら、友達と参加したくなるようなエンターテインメントで、地域で作り上げる地域のためのイベントを目指す。

実施後は、千種区公式 Facebook、Instagram など SNS でイベントの様子などを掲載する。また、高校、大学の部活やサークルの SNS などでも協力して広報することを考えている。



提案施策

<学生からの提案施策 ②>

中学生から大学生と親と一緒に小学生を対象とした2つのイベント。

1つ目は、VR を用いた防災訓練。VR 機器を2日間レンタルするのに、約20万円必要であり、費用が高いというデメリットはある。もっとも、最新機器を体験できれば、若者の関心を高めることができる。

2つ目は、ハザードマップ作成体験。自分たちで作るハザードマップは記憶に残りやすいし、低コストで実現できる。

実施後は、訓練の様子を SNS でハッシュタグをつけて投稿、拡散することを考えている。



提案施策

<学生からの提案施策 ③>

小学生を対象とした映像による災害体験・防災ジャンボかるたゲーム・送風機（どでかファン、MAX 風速 20m/s）を使った傘さし体験という3つのイベント。

どでかファンのレンタルにかかる費用は、基本料 2000 円と使用料 1 日 4000 円の合計。小学校の体育館で実施し、賞状、オリジナルグッズ等の特典を用意する。

小学生が飽きやすい講座型ではなく、楽しく学べる体験型学習にする。また、体験したことを家族へ話すことで、家族へも共有される効果が期待できる。



提案施策

<学生からの提案施策 ④>

高校生・大学生を対象とし、TikTok に防災豆知識の 60 秒動画を投稿する。

なぜ TikTok かというと、Instagram に次ぐ利用者数であり、10 代、20 代が多く利用しているからである。また、Instagram は写真やテキスト中心で、基本的にフォローしている人のみが見ることができる。それに対して、TikTok は動画が中心で、不特定多数の人が見ることができる。

TikTok で防災講話の周知なども行う。防災講話参加者には抽選で、景品をプレゼントする。景品代の予算は、約 10 万円を想定している。

<学生からの提案施策 ⑤>

小学生・中学生を対象とし、避難場所スタンプラリーを実施する。

具体的には、住民の異動が少なく、気候のよい 11 月の土日 8 日間に、学区ごとに避難所をまわる。

気軽に参加できるし、地域の人との交流を深めることができる。また、小中学生に防災に興味を持たせる効果が期待できる。

イベントの周知のため、Instagram の広告、回覧板、学校でのチラシ配布という手段をとる。Instagram の CPV*は、4~7 円が目安で、1 か月あたり 10 万円程度の予算が理想である。

※広告視聴 1 回当たりの費用。動画広告を配信した際に、動画が 10 秒以上再生されるか、最後まで再生された場合に費用が生じる。

<学生からの提案施策 ⑥>

小学生から大学生、10 代から 20 代の外国人を対象とし、手作りハザードマップを作成する。

実際に歩きながら作成する。ハザードマップはカラーで、シールなどを使用し、付箋で多言語に対応したものにする。作成後は、区役所で展示する。

自分の目で確かめることで記憶に残りやすい。また、親世代へのアプローチ、外国人との交流ができるという効果が期待できる。

イベントの周知のため、小学校にポスターの掲示、SNS での広報という手段をとる。ポスターは、必ず写真を使い、簡単な日本語で SNS アカウント名を記載したものにする。SNS での広報であれば、若者に伝わりやすい。また、自動翻訳機能があるため、外国人でも読める。防災豆知識や次回開催情報を投稿する。

予算は、手作りハザードマップ用（紙、シール等）として、2 万円程度を想定する。





<学生からの提案施策 ⑦>

親と一緒に小学生を対象とした防災スタンプラリーと、大学生を対象とした合コンキャンプ。

防災スタンプラリーは、東山動植物園で実施し、○×クイズや防災グッズを配布する。合コンキャンプは、男女のグループでハザードマップを作成し、防災障害物リレー・防災クイズ大会・防災講習会等に参加し、炊き出しを作って食べる。

若者は防災意識が低い。でも、講演会は堅苦しいので参加してくれない。防災を考えるきっかけづくりとして、楽しく学ぶためのイベント。

イベント周知のため、名古屋市内にある大学、星ヶ丘テラスでチラシを掲示する。チラシにはQRコード掲載し、千種区の公式SNSに誘導する。また、InstagramやTwitterなどのSNSで周知する。

提案施策の活用方針

学生の皆さまから提案のあった施策を、以下のとおり反映することを検討しています。

1 ちくさ子ども防災キャンプへの活用

(1) 参加した子どもへの特典

【学生からの提案】

参加者の特典として賞状や啓発品を配り、家庭で防災について話し合う機会につなげる。

【実際に行うなら】

ちくさ子ども防災キャンプに参加した子どもに対して、「キャンプに参加してよかった」「防災についてもっと知りたい」という気持ちを持っていただくことを目的に参加証明書を交付する。

免許証サイズでランドセルに入れておくなど携帯ができ、裏面にはいざという時に備え、連絡先などを記入できるようにしておく。

イメージ 表面

イメージ 裏面

ちくさ子ども防災キャンプ2021
参加証明書

あなたはちくさ子ども防災キャンプに参加したことにより、防災のたぐい知識を学んだことを証明します。

なまえ ○○ ○○

★★★★★

さいがいじれんらくさき
災害時連絡先カード

なまえ けつえきがた
血液型

じゅうしょ
住所

いえ でんわばんごう
家の電話番号

きんきゅうれんらくさき
緊急連絡先

(2) 防災ジャンボかるた

【学生からの提案】

防災に関して適度に体を動かして遊んで学べるもの。かるたを大きくしたもので、足で踏んでかるたとりをする。

【実際に行うなら】

区役所であらかじめ読み札を作成し、参加者には絵札を書いてもらう。遊んだ後は自分の絵札を記念に持って帰ってもらう。

2 その他の活用できそうな内容

(1) 広報（SNS の活用）

【学生からの提案】

わかもの会議において Facebook、Twitter、Instagram、TikTok など SNS を活用した広報を提案。

全てのツールに共通して若い世代はこれらを活用し、日常的に情報を得ていることから活用を提案している。

【実際に行うなら】

千種区公式 Facebook で、防災事業の開催告知、開催報告や区民に知ってほしい防災知識等の発信を強化する。また、防災研修・講習の場で Facebook にて情報発信していることを広報する。

(2) 啓発コンテンツ

予算面を解決すれば、以下に挙げているような、従来の訓練の中に取り入れられそうな提案は実施していく。

例)

- ・送風機を使用した台風の体験
- ・VR を用いた体験型防災訓練
- ・防災クイズ

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

